

85

## 本学の学生・教職員を対象とした 「歯科医学歴史散歩」について

石橋 肇, 那須 郁夫, 渋谷 鋳

日本大学松戸歯学部

我々は歯科及び医学に関する史跡を訪ねる半日の小旅行を本学の学生と教員を対象に企画し「歯科医学歴史散歩」として、これまで3回実施してきたのでその概要について報告する。

本学の開学(昭和46年) 当時に歴史学の担当者であった浅香勝輔教授が「歴史散歩」を企画実行していた。その浅香教授の歴史散歩を参加していた共同演者の那須が2011年に横浜開港資料館で開催されていた「痛っ… 歯が痛い —— 歯科医学の誕生と横浜 ——」の開催を機にこの「歴史散歩」に倣って特別展を見学するべく「歯科医学歴史散歩」を発案し、渋谷の協力を得て実施することとなった。この横浜における「歯科医学歴史散歩」を2011年3月6日に行ったのを皮切りに、第2回を2011年12月11日及び第3回を2012年12月2日に行っている。

第1回は教職員4名、学部学生2名、附属衛専校学生2名と横浜の本学同窓生2名が参加し、さらに日本大学新聞の記者1名も取材のため同行したため、総勢11名で実施した。桜木町駅に集合し、神奈川県歯科医師会館前にある「我国西洋歯科医学発祥の地」及び「西洋歯科医学勉学の地」の碑を見学し、歯科医師会館の中を横浜の同窓生に案内して頂いた。同会館内にある「歯の博物館」は休館日のため入口までの見学であった。歯科医師会館内部と会館内にある横浜市歯科保健医療センターも案内して頂いた。その後、馬車道近辺にある牛馬飲水槽、日本で最初のガス灯、写真の開祖・下岡蓮杖、旧横浜正金銀行本店店舗、旧東京三菱銀行横浜中央店、横浜開港記念会館、神奈川県庁、横浜税関などを眺めながら、横浜開港資料館へ向かい、企画展の「痛っ、歯が痛い展」と常設展を見学した。中華街で昼食をとり、解散となった。なお、この「第1回」については2011年4月20日発行の日本大学新聞に「第1回歴史散歩横浜の地を巡る」として掲載された。

第2回は「腑分けと解体新書」と称し、南千住から三ノ輪まで散策した。参加者は教職員3名、学部学生5名及び附属衛専校学生6名の計14名であった。南千住駅に集合し、まず、小塚原刑場跡にある延命寺を訪ね、首切り地蔵を詣で、回向院に向かった。回向院では解体新書の記念碑等を見学した。コッ通りを散策しながら、素盞雄神社を經由し、荒川ふるさと文化館に入館した。その後、日本初の羊毛工場「千住製絨所」跡の連歌堀、上野の寛永寺から黒門が移設された円通寺を經由し、商店街であるジョイフル三ノ輪を散策して、同地の老舗の蕎麦屋で昼食をとった。昼食後、都電三ノ輪橋停留所を通り、吉原の投げ込み寺として有名な浄閑寺を訪れた後、解散となった。

第3回は上野・本郷そぞろ歩きと称し、上野から本郷を散策した。参加者は教職員5名、研修医1名、学部学生5名及び附属衛専校学生3名の計14名であった。上野駅に集合し、まず、上野公園内の野口英世像とボードワン博士像を見学し、東照宮前と不忍池の弁天堂を通過して、東京大学に向かった。東京大学には医学校鉄門跡から入校し、「ベルツの庭石」を見学した。さらに「健康と医学の博物館」に入館し、企画展「わたしたちの脳」と常設展をみて、博物館脇にある「スクリバとベルツの胸像」を見学した。三四郎池の南側から赤門に至り、本郷3丁目の交差点で「かねやす」眺めながら、「文京ふるさと歴史館」に行き、特別展「近代医学のヒポクラテスたち」と常設展示を見学した。その後、東洋学園大学の永藤欣久氏のご好意により休館日にもかかわらず同大学の史料室を見学させて頂いた。見学後、水道橋駅近くの食堂で昼食をとり、解散となった。

歯科医学、歯科医療を志す者にとって、そのルーツを辿ることは教育上最も大切なことであり、今後とも続けていきたいと考えている。